

甲府市議会「政和こうふ」視察研修報告書

報告者 鮫田 光一

1. 日程

令和6年7月16日（火）～令和6年7月18日（木）

2. 参加者 10 名

興石 修	金丸三郎	岡 正吉	山中和男	末木 咲子
小沢宏至	鮫田光一	川崎 靖	鷹野弘貴	中嶌 寿

【視察概要①】長崎県対馬市

- (1) 視察日時 7月16日（火）
- (2) 視察場所 対馬市役所
- (3) 視察項目 『有害鳥獣対策について』
『鳥獣捕獲管理支援デジタルシステム「ラクログ」』
『ICTを活用した鳥獣害対』
- (4) 対応者 対馬市役所 農林水産部 自然共生課
次長兼課長 桐谷優 様、係長 神宮周作 様
- (5) 視察内容
政和こうふ 興石修代表 挨拶

対馬市役所 農林水産部 自然共生課 次長兼課長 桐谷優 様 より説明
『有害鳥獣対策について』

『鳥獣捕獲管理支援デジタルシステム「ラクログ」』

・イノシシは 1700 年から 1709 年には絶滅。1994 年に野外で目撃される。
1998 年被害が全島に及ぶ。

・シカは 1966 年県の天然記念物に指定され捕獲が禁止。1970 年農林業被害
が発生し始める。1983 年地域指定天然記念物に変更。2004 年天然記念物指
定解除。

・防護さくは令和5年迄で1,138kmを設置している。（鳥を丸ごと囲む距離）
・有害鳥獣捕獲従事者は令和5年でわな猟免許 226 人。銃猟免許 49 人。
・捕獲アプリ「ラクログ」イニシャルコスト 200 万円、ランニングコスト 5
万円／月

・アプリ利用実績 令和4年度 247 名に案内、127 名が参加。51.4%がラク
ログ体験。捕獲データを 10 件以上送信した方 18 名。令和5年度運用実績は

捕獲データを送信した方 226 名中 36 名 (897 頭送信)。補助金を申請した方 11 名。714 頭/12,406 頭分を申請した。

- ・令和 5 年度はラクログ操作研修開催 5 会場 41 名参加。(うち新人 9 名)
- ・目標は 7 割がラクログで補助金申請。庁舎に出頭しない電子申請の実現。
- ・課題は、捕獲アプリに対応できない携帯電話があるなど多数あり。
- ・捕獲頭数は令和 5 年でイノシシが 3,825 頭、シカが 8,704 頭。
- ・捕獲報奨金は令和 5 年でイノシシが 40,168 千円、シカが 92,676 千円。

対馬市役所 農林水産部 自然共生課 係長 神宮周作 様より説明

『ICT を活用した鳥獣害対』

- ・対馬における超獣被害の状況①農作物被害②林業被害③生態系被害
- ・シカの捕獲数の増加が続いている。防護柵の外側は植物が食べつくされている。きれいな黄色い花のハクウンキスゲは食べつくされてしまい景観が変わった。観光資源の消失。土砂崩れ、海への土壌流出。
- ・罾の対応も移動距離が長く効率が悪いので遠隔監視を検討した。
- ・オリワナシステムは LPWA (長距離のデータ通信を可能とする無線通信技術) で携帯圏外での通信が可能。ただし通信できるデータ量は少ない。わなにかかったという信号のみ。
- ・自動撮影カメラ TREL 4G-R は 4GB 回線を通じて撮影した画像や動画をメールで送信できる自動撮影カメラ。
- ・捕獲結果は令和 4 年度は 562 日で TREL 4G-R でイノシシ 5 頭、シカ 6 頭。432 日でオリワナシステムはイノシシ 1 頭、シカ 13 頭。

(6) 質疑応答

Q 対馬の中ではシカ、イノシシは何頭いるとされているのか。

A シカは 4 万頭。イノシシは過去 8 万頭を駆除して全島絶滅した経緯がある。

Q 猟友会の人数は

A 令和 4 年度の 254 名が最高でした。1 頭 1 万円の捕獲報奨金につられて始めた方は長続きしない。最近は毎年 30 人やめて 15 人入ってくるという傾向

Q ツシマヤマネコの保護は

A 年間 10 頭ほど車にひかれてしまう。それ以上の頭数が罾にかかっている。発見が遅いと足が壊死してしまったり、死んでしまう課題となっている

る。

Q 令和6年度の捕獲予想頭数は

A イノシシはあがり、シカは少し下がっていると思っている。

Q シカとイノシシの捕獲報償費は

A 各1万円の報償費だが、市内に3カ所ある食肉加工施設に持ち込めば、プラスで2,000円は報償費がある。

Q 少ない場所でも捕獲に注力するわけは

A そのエリアに守るべき自然資源があるということです。また、距離などの問題もあり、捕獲が難しい場所です。

お礼の言葉 政和こうふ 金丸三郎



【視察概要②】長崎県長崎市

- (1) 視察日時 7月17日(水)
- (2) 視察場所 長崎市役所
- (3) 視察項目 『まちぶらプロジェクトについて』
- (4) 対応者 長崎市役所 まちづくり部 まちなか事業推進室
係長 甲斐大貴様、平山紗希 様

(5) 視察内容

政和こうふ 興石修代表 挨拶

長崎市役所 まちづくり部 まちなか事業推進室 係長 甲斐大貴様、
平山紗希 様 より説明

『まちぶらプロジェクトについて』

- ・まちぶらプロジェクトの概要、始動かまでの流れ
- ・市民が主役、市民と一緒にアイデア将来像を共有
- ・各エリアの魅力を活かしながら魅力向上
- ・まちなか軸、歩道、トイレなどの整備で歩いて回遊
- ・地域力によるまちづくり
- ・【新大工エリア】商店街・市場を中心とした普段着のまち
新大工まちゼミナール、市街地再開発事業
- ・【中島川・寺町・丸山エリア】和のたたずまいと賑わいの粋なまち
町家の維持・再現、歳時の顕在化、まちぶら広場社会実験、
- ・【浜町・銅座エリア】長崎文化を体感し、発信する賑わいのまち
銅座は路地の魅力向上等
- ・【館内・新地エリア】中国文化に触れ、食を楽しむまち
中国文化魅力発信
- ・【東山手・南山手エリア】異国情緒あふれる国際交流のまち
洋館の活用、花のあるまちづくり
- ・回遊路の整備：昔と同じような石畳の道の整備
- ・トイレや休憩所の充実：各エリアの様式に合わせた施設づくり、
公衆トイレだけではたりないので、民間のトイレをおもてなしトイレ
- ・まちなか賑わいづくり活動支援：ながさき絵本の旅プロジェクト、
CHALLENGE THE NAGASAKI、まちぶらプロジェクト認定事業（現在1
02事業を認定）
- ・情報発信の取り組み：まちなかイベントカレンダー、まちあるきマップ
の作製、まちぶらNEXT交流会

(6) 質疑応答

Q 国からの補助金の活用について

A 都市構造再編集集中支援事業を使って整備、中心市街地活性化支援事業は2期目、マイルスも整備した。

Q 民間のトイレ

A 軸づくりの中で回遊してもらうためにはトイレの整備が大事で、市から民間にも協力を呼び掛けた、トイレの整備には以前は補助金を出していたが、外国人のマナーの悪さやコロナ等で民間が一時貸さなくなったこともあった。

Q 交流会について

A 認定事業者間の交流会を年に一度開いていたが、幅を広げて交流会を開いた

Q 民間のおもてなしトイレの維持管理について

A 市からは支援はない、公園のトイレ維持管理は各自治会に費用を支払っている

Q おもてなしトイレはどのような方が協力してくれているか

A コンビニだけではなく、商店や飲食店などです

Q 街歩きの休憩所について

A 歩道にベンチ、公園で休憩できるように整備した、エリアごとに整備した、公共空間の利活用としてウォークアブル推進都市に手を挙げている。まちぶら広場は普通財産であり活用をした。

Q まちなかマルシェの対象者は

A オーガニックを対象にしたこともある

Q 認定事業の補助は

A 上限50万円、5分の4、スタートアップなので最初だけ

Q 障がい者の方々との連携は

A 今のところはない、市役所内では障がい者の方々が作ったパンを販売している

Q 軸の長さについて

A 一日で歩ける距離ではあるが、昔からある資源を活用している

Q 原爆の影響は

A 原爆はもう少し北のエリアでした、今回のエリアには建築基準法前の建物が多く残っている場所がある

Q 喫煙所は

A 公園の喫煙所もなくした、公共施設からもなくしている

Q ソフト面の予算は

A 事業費はR4年末までで184億円大半はハード事業、ソフト面は年間300万円程度

(7) お礼の言葉 政和こうふ 川崎 靖



【視察概要③】長崎県佐世保市

- (1) 視察日時 7月18日(木)
- (2) 視察場所 佐世保市役所
- (3) 視察項目 『佐世保市の合併の歴史について』
- (4) 対応者 佐世保市役所 議会局 局長 池田 様
地域未来共創部 部長 中尾健一 様
地域未来共創部 副部長兼地域政策課長 尾崎公博 様

(5) 視察内容

佐世保市役所 議会局 局長 池田 様 挨拶
政和こうふ 興石修代表 挨拶

地域未来共創部 部長 中尾健一 様

地域未来共創部 副部長兼地域政策課長 尾崎公博 様 より説明

『佐世保市の合併の歴史について』

- ・合併から13年で人口が3万人減少し23万人となった
- ・転出超過のワースト3位
- ・慢性的な水不足
- ・クルーズ船の港を2つある
- ・IR誘致に取り組んできたが、国から不認定とされた
- ・長崎県における市町村合併推進について
- ・佐世保市の合併に関する基本的な考え方は、県北地域の中心としての役割を担い続け、生活圏、経済圏を拡大してきた
- ・宇久との合併について、60km離れた離島との合併、宇久と小値賀の航路は佐世保
- ・平成14年1市2町の合併に向け第1回協議会を開催
- ・平成17年4月1日に吉井町、世知原町と合併
- ・平成18年3月31日に宇久市、小佐々町と市町村合併
- ・平成22年3月31日に江迎町、鹿町町と合併

(6) 質疑応答

Q 合併の効果は

A 合併算定替えが10年間で300億円と大きかった

Q 連携中枢都市の課題と効果は

A 合併が半世紀に 1 回あるのが国の考え、財源や権限が動かない限り大きな効果はない、移住関係、特産物 PR などと一緒にやっている
近隣市町でゴミ、火葬など単独ではできなくなっている所以今後一緒にと考えている
総務省が言う技術屋さんを派遣してというのは人材不足なので難しい

Q IR は国から NG が出たのか

A そうです。諸外国はカジノ管理法があるが、日本は観光目的となり、観光効果が見込めないと NG となる。

Q 佐世保市の自治会加入率は

A 80%程度です。

Q 合併効果について

A 吉井町に吉井洞窟があり、国指定となった。合併しなければできなかったことのひとつです。交流人口を増やすことが大切。

Q 佐々町と合併はなぜできなかったのか

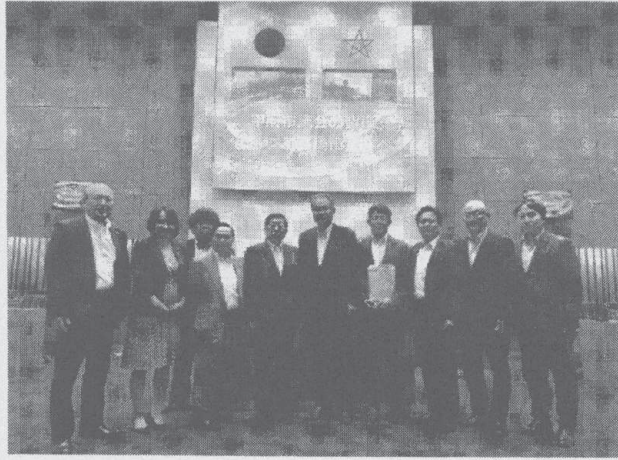
A 佐世保のベットタウンなので税収も良いので、合併しない

Q 基地関係では

A 基地の交付金がでる。基地が所在する市町村が使える率が高い交付金がある。基地経済があるのでどこも歓迎している。

(7) お礼の言葉 政和こうふ 鮫田光一





以上